外部評価報告書

はじめに

お茶の水女子大学グローバル COE プログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」は、5 年間にわたる教育・研究プロジェクトの方向性の的確性を問い、実施予定の事業について客観的な評価を得るために外部評価を行うことを最重要視してきた。その点に鑑み、本プログラムは、外部評価を組織的に行うために外部評価委員会を設置し、委員会において、プログラムの 1 年目、3 年目、そして最終年である 5 年目に行うことを決定した。外部評価のやり方として、本プログラムが国際的教育研究拠点を念頭に置いていることから考えて、国内の研究者等の評価に加えて、外国の研究者等からの国際的評価も受ける必要があることを外部評価委員会は認識している。

2011（平成 23）年度は、本プロジェクトの 5 年目、つまり最終年であり、本報告書は、最終報告書の位置づけになる。5 年目の評価の第一の目的は、4 年間の教育研究計画の進捗を受けて、本教育研究プログラムの成果について最終的な評価を受けることにある。そして第二の目的は、本プロジェクトは終了するものの、グローバル COE プログラムの目的に鑑み、本プログラムの成果を、研究教育の拠点形成にどの様に生かしていくかについて、示唆を得ることである、外部評価委員会では、第三回の外部評価を、国内の研究者、国外の研究者共に、書類審査の形で行った。外部評価委員には、本拠点のプロジェクトの進行状況について書かれた外部評価用資料と報告書等一式をお送りし、外部評価書に記入して頂く形式をとった。

国内の研究者による外部評価委員会は、外部評価委員として、潮木守一先生（名古屋大学名誉教授：桜美林大学大学院国際学研究科招聘教授）、柏木惠子先生（東京女子大学名誉教授）を迎え、学内評価委員として石口彰先生（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科長）にお願いした。そして、国外の外部評価委員として、Gary M. Ingersoll 先生（Professor Emeritus, Department of counseling and Educational Psychology, Indiana University School of Education: Professor Emeritus, Department of Pediatrics, Indiana University School of Medicine, U.S.A.）にお願いした。

以下、各評価委員からの外部評価の内容について、教育プログラム、研究プログラムに分けて整理することにしたい。そして、各委員の指摘を、当プロジェクトが、今後どの様に本学の研究拠点形成対応に生かしていくかについて言及する。

１．外部評価委員からの意見

（１） 教育プログラムについて

① 研究教育の学際性に対する評価

多くの外部評価委員から「研究のタコツボ化」を排し、学際性を目指している点に高い評価が与えられている。教育学、社会学、経済学、心理学、医学など多様な分野の教員が既存学問の壁を低めて、学際的な教育、訓練、研究を、密度を濃くして、大学院生に提示している点が評価されている。そして、グローバル COE プログラムの終了後も、引き続き、この姿勢を維持していくことが要望された。

②教育プログラム全体に対する評価

本拠点における１）ＲＡ制度、２）公募研究制度、３）研究発表支援プログラム等、大学院学生への研究・教育支援制度と既存の複数教員指導制、ステージ制とを組み合わせた基盤教育プログラムは、学生の研究能力を活性化する、実効性のあるプログラムであると評価できる。

③教育プログラム「ステージ制」に対する評価

ステージ制の導入と推進は、大学院生の研究推進と学位取得の実現のために極めて有効な方策として高い評価を得ている。「ステージ制」は学生の研究推進へのインセンティブシステムとして機能し、大学院生が緊張感を持って研究に邁進しているという高い評価を頂いた。

その一方で、「ステージ制」による懇切丁寧な体系的指導が、丁寧であるが故に大学院生の研究者としての自立性に与える影響について懸念も表明された。大学院生は研究者の卵として、自らの研究スタイルを確立する必要があるが、その際に、指導教員以外の学外の研究者も含めた人々との交流も必要とされると考えられる。「ステージ制」が学内の指導教員を中心とする教員との密接な師弟関係の中での閉じた研究指導システムになっていないか、点検が必要である事が指摘された。学外の多領域の研究者との交流、自由に議論する機会を作ることの重要性が指摘された。また、大学院生の学位取得後の研究の進展についてもフォローするなど、「ステージ制」の果たした役割について長期的に検証を必要とすることが指摘された。

④大学院生に対する教育プロジェクトについて

大学院生に対する研究発表支援、協働研究補助等の教育プログラムについて、研究者養成のための詳細かつゆきとどいた支援体制が設けられているという高い評価を得た。その一方で、協働研究プログラムについては、研究の活性化・実質化・多様化という意味では、優れたコンテンツと思うが、教育的観点からの内容とその成果、とく

に大学院生がどのように関与し、どのような研究力を身につけたのかについて、明らかにして欲しいという要望も提出された。

また、リサーチアシスタント（RA）の給付について、大学院生の研究生活を補助するためには、給付金額の水準について考慮するべきであるとの指摘を受けた。

大学院生に対する教育プロジェクトを実施するための財源を今後ともしっかりと確保することの必要性が強調されている。

⑤教員スタッフの教育体制について

2007 年 4 月にグローバル COE プログラムがスタートしてから、若干の教員の人事異動があったが、その教育面への影響に関して検討を行い、対策を講ずるべきである事が指摘された。

（２） 研究プログラムについて

① 領域融合的研究の成果について

教育社会的格差領域、国際的格差領域、養育環境格差領域の３領域に領域融合的研究と基礎問題プロジェクトがあるが、資金を有効に使い、実りある成果を挙げているという評価を得た。外国研究者の外部評価委員より、研究がより洗練されてきており、研究者の研究業績も本学の研究水準は、COE(Center of Excellence)にふさわしいという評価を頂いた。また、「たこつぼ」にはまらずに、社会的視野を持って社会問題に取り組んでいる点に高い評価を得た。

本グローバル COE プロジェクトの最大の特徴は、様々な専門分野の研究者が協働し、伝統的なアプローチを超えた新たな研究手法を開発し、新しい視角、問題意識を持った点にあるという評価を得た。これらの研究者の下で教育を受けた大学院生の今後の研究活動に期待が表明された。

②研究の国際性について

グローバル COE プログラムの研究プロジェクトの持つ国際性について 2 つの点で高い評価を頂いた。第一に従来あまりなされてこなかったアジア諸国との国際共同研究を行って成果を得ている点、研究者、大学院生が国際共同研究の方法論を学んだ点が高く評価されている。引き続き、この国際共同研究体制を維持することに高い期待を持たれている。国際共同研究体制を維持することによって、国内の国際共同研究の活性化を促し、さらに必ずしも研究体制の整っていない相手国の研究者の共同を促し、研究組織を強化することができる点、さらには学界を超えて、政界、官界、経済界、メディア界のネットワークも作り出す可能性がある点が外部評価委員によって強調された。

また、国際シンポジウム、政策研究についても適切に行われたという評価を受けた。これらが、研究機関同士の協力、国際的な研究協力に貢献するという評価を頂いた。

③研究プロジェクトの成果の情報伝達について

本研究プロジェクトのウェブサイト上での成果の公表、ニュースレターの配布など成果の発信方法について一定の評価がなされた。ただし、ウェブサイトの活用による情報の発信を過信しないこと、ニュースレターの配布先について関係学会、大学のみならず、個人への配布も含めて戦略的に行うことの必要性が指摘された。

④研究プロジェクトの継続性について

グローバル COE プロジェクトの研究プログラムの中には、5 年間という期間を超えた長期のフォローアップを必要とするプロジェクトが含まれているが、研究の継続のための財政基盤を含めた体制作りの必要性が指摘された。

⑤人生の末期「死」における格差研究について

人は必ず「死」の時を迎えるが、その「死」の迎え方、「死」に対する感じ方は多様である。本研究プロジェクトに対してその時の「格差」研究についても期待が寄せられた。

⑥研究倫理審査について

研究倫理審査は、昨今では、研究を実施する組織においては、必要不可欠なものであるが、本拠点の研究倫理審査の現在における、革新性を明示して欲しいという要望が出された。

（３）教育研究プログラムを支える組織体制について

グローバル COE プロジェクトの教育研究プログラムを遂行する上で、本プログラムに割く教員、事務局を含めた人的資源、本プログラムを除く大学の活動に影響がなかったか検証をするべきであるという助言を得た。研究者がプロジェクトの研究、教育プログラムの目的達成のために自らの研究者としての自立性を損なうことがなかったか、ご心配を頂いた。

本プログラムからつながる研究プロジェクトの推進を継続的に行うことに対して期待が表明された。プロジェクト継続のためには、財源的裏付けが必要であり、出資者である国民の理解を得るためにメディア等を通じて、教育研究の成果を社会に伝えていくことの重要性が強調された。

（４）海外からの評価（海外外部評価委員からのコメント）

In my May 2010 review I commented on my sense there “was the clear positive trajectory in your efforts.” Thus a good deal of this review of your research trajectory was based on a comparison of, in particular, Proceedings 9 (March 2010) and Proceedings 13 (March 2011). The difference in the levels of sophistication of research methodologies is striking. While the former was dominated by surveys and literature reviews, the latter included much more sophisticated structural analyses. Clearly the standards for what is included and acceptable to be included in your Proceedings has increased. From my view, it is precisely this trajectory that will result in positive international recognition.

My attention was drawn to the stipend that your program offers to postgraduate students. I translated it into US dollars and wonder whether it is sufficient to support full time study. Perhaps it serves as an addition to other support. Nonetheless it is clear that the program and the university are aware of the need to offer support for young scholars. You do not mention whether there exists any mentoring program for young faculty. My experience is that such mentoring offers important bolstering of their progress as scholars.

I found the array of international symposia and policy studies appropriate and also took note of the positive degree to which research and policy studies made use of inter-institutional and international collaboration.

My premise is that as the research trajectory continues and faculty publish in international, refereed journals , the Ochanomizu University Global COE Program will be afforded recognition as an “International Center for Excellence.”

(by Dr. Gary M. Ingersoll, Professor Emeritus, Department of Counseling and Educational Psychology, Indiana University School of Education: Professor Emeritus, Department of Pediatrics, Indiana University School of Medicine, U.S.A.)

２．外部評価委員のコメントに対する対応・回答

本節では、第１節で示された外部評価委員の本プログラムに対する提案を真摯に受け止め、本プログラムとして、総括を行うと共にグローバル COE プログラム終了後の本プログラムを生かした教育研究の方向性について考えることとしたい。

（１）教育プログラムについて

①研究教育の学際性に対する評価、②教育プログラム全体に対する評価について

外部評価委員の評価をありがたく受け止めさせて頂くと同時に、グローバル COE プログラム終了後も継続して取り組んでいきたいと考えている。

③ステージ制について

ステージ制が、大学院生に対して学位取得のための研究推進、論文作成のインセンティブシステムとして機能していることに対して評価を頂いた一方で、大学院生の研究者として独り立ちするための冒険を阻害する可能性、研究者としての自律性の涵養を妨げる可能性については、常に留意しなければならないと考えている。

本学大学院人間文化創成科学研究科では、大学院生に主査と副査を選択できるようにしており、定期的に複数の教員及びその周りの研究者、大学院生と討論することが機会として与えられているばかりでなく、実質化している。また、国際セミナーを含め、多くの学外に公開された研究会に参加、発表する機会を与えられており、負の側面を和らげる措置がなされていたことを記しておきたい。

④大学院生に対する教育プロジェクトについて

プラスの評価を頂いたことをありがたく受け止めると同時に、リサーチアシスタントに対する給付水準について配慮し、大学院生に対する協働研究に対するご指摘を真摯に受け止めたい。

リサーチアシスタントに対する給付水準については、業績をあげたものにより多くの給付が行われるようにメリハリを付けたつもりであるが、今後の検討課題としたい。

協働研究は、研究者が研究対象の中で調査をするばかりでなく、共に活動し、得た調査データを用いて行った研究の成果を再び研究対象にフィードバックするという独創的なものであったが、大学院生が、その内容をプログラム企画者の意図していたとおりに理解していたかを再検証する必要がある。協働研究は、研究手法として斬新であると同時に、研究成果の社会への還元の手法としても有効であると考える。グローバル COE プログラム終了後も、協働研究の促進に努めたい。

⑤教員スタッフの教育体制について

グローバル COE プログラムがスタートした 2007 年以降、たしかに教員の異動が生じている。1 名は 2008 年度に他大学へ異動したが、本プログラムの事業推進担当者であり続け、本プログラムに関わる教育研究活動を継続している。もう 1 名は、2010 年度に本学を定年退任後、客員教授として採用され、本プログラムの事業推進担当者であり続け、本プログラムに関わる教育研究活動を続けている。したがって、本プログラムについては、教員スタッフの退職、異動等による影響は最小限に抑えられていると考えられる。

（２）研究プログラムについて

①領域融合的研究の成果について、②研究の国際性について

外部評価委員の評価に恥じぬよう、本プログラム終了後も努力を継続して参りたい。

③研究プロジェクトの成果の情報伝達について

本プログラムでは、研究プロジェクトの成果を、各種セミナーの開催、ニュースレターの配布、ウェブサイトの活用により行ってきたつもりである。しかし、外部評価委員の指摘の通り、今日の情報の豊富な社会においては、いかに有効に必要な人々のところへ情報を伝達するかは重要な課題になっていることは本プログラム担当者も十分に認識しているところである。現在、本プログラムの成果の書籍出版の計画が進行中であるが、このこともふくめて、より有効な情報伝達に努めて参りたい。

④研究プロジェクトの継続性について

外部評価委員のご指摘の通り、グローバル COE プロジェクトの研究プログラムの中には、長期のフォローアップを必要とするプロジェクトが含まれているばかりでなく、教育プロジェクトにおいても、長期の取り組みを必要とするものが含まれている。本プログラムでは、学内に人間発達教育研究センターを設置し、グローバル COE プログラムにおける諸事業を継続するための基盤作りを固めてきた。今後も、人間発達教育研究センターの運営体制を強固にし、教育研究プログラム事業の推進に邁進していきたい。

⑤人生の末期「死」における格差研究について

本プログラムでは、高年齢世代を研究対象としている。しかし、その最終的終着点の「死」に関する研究は、必ずしも扱ってこなかったのが実際のところである。しかし、外部評価委員のご指摘の通り、興味深いテーマであり、今後の検討課題として精査して参りたい。

⑥研究倫理審査について

研究倫理審査は、昨今では、研究を実施する組織においては、必要不可欠なものであるが、本拠点の研究倫理審査の現在における、革新性を明示して欲しいという要望が出された。

（３）教育研究プログラムを支える組織体制について

グローバル COE プログラムの計画、推進にあたり、各教育研究プログラムを遂行するために必要な研究分野、研究テーマを持つ教員を精査して、各プログラムに充てており、事業推進担当者等、本プログラムの担当者が、個人の研究教育を犠牲にしなければならない部分はきわめて小さかったと考えられる。ただし、プログラムの運営にあたり、やはり事務作業等を行う組織が必要であったことは事実であるが、本プログラムは幸いにして有能な事務スタッフに恵まれ、事業推進担当者等の本プログラムの担当者の負担は最小限に抑えられたと信じている。ただし、外部評価委員のご指摘はもっともであり、今後精査して参りたい。

また、研究プロジェクトの継続性に関する外部評価委員のご指摘に感謝したい。グローバル COE プログラムは、プログラムの推進により、期間終了後も各大学が研究拠点として機能することが期待されており、外部評価委員のご指摘をきわめて重要なものと認識している。本学では、人間発達教育研究センターを学内センターとして設置し、グローバル COE プログラムの研究教育プログラムの継続性を図っている。今後とも、当センターを基盤にして、研究教育プログラムの継続性が維持できるように努力して参りたい。

平成 23 年度　グローバル COE 外部評価用スコアシート

外部評価委員 4 名（国内 3 名、海外 1 名）

（　）内数字は回答人数

	評　価　項　目(evaluation item)	非常に高い	高い	普通	低い	非常に低い
1	本拠点の事業推進担当者の研究業績から判断して、本拠点の現在の学術研究活動のレベルをどのように評価されますか。 Judging from the research achievements of the program members at this COE, what is the level of the COE's current academic research activities?	2	2 （△1）			
2	本拠点の現在の教育活動・人材育成のレベルをどのように判断されますか。 What is the current level of educational activities and manpower training at this COE?	1	3			
3	大学院生に研究のインセンティブを与えるための本拠点のオリジナルの取り組みである、公募研究制度等の試みをどの様に評価されますか。 What is your evaluation of the systems at this COE? For example, the original system of public calls for research, which is designed to give graduate students incentive to undertake research?	1	3			
4	本拠点の国際セミナー（国際会議）、各種セミナーの実施状況についてどの様に判断されますか。 What is your evaluation of the status of this COE's activities in conducting various international conferences and other seminars?		4			
5	本拠点の活動は、他の関連する国内の教育研究機関やグループと比較して、どのレベルにあると判断されますか。 ＜注１＞		2 （△1）			
6	本拠点の活動は、他の関連する国外の教育研究機関やグループと比較して、どのレベルにあると判断されますか。 ＜注２＞Where do you position the level of this COE's activities in comparison to those of other related educational and research institutions and groups around the world?		2	1 （△1）		
7	本拠点は、わが国の学術研究ならびに高等教育の向上にどの程度の貢献をすると思われますか。 What is the level at which you feel that this COE can contributes to the improvement of academic research and higher education in Japan?	2	2			
8	本拠点は、「国際的研究拠点」の名にふさわしいと思われますか。 To what degree do you feel that this COE is deserving of the title "International Center of Excellence"?	1	2	1		
9	本拠点の総合評価をお願い致します。 Please give your overall evaluation of this COE.	1	3			

＜注１＞　質問 5～英語の質問項目から除外。未記入１名（理由：比較評価できないため）
＜注２＞　質問 6～未記入１名（理由：比較評価できないため）